



年頭雑感



VEC関西支部の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年10月、ある国際的イベントに参加するため、久しぶりにオーストラリアを訪れた。男性社会である政界のダイバーシティを訴える元首相の女性とか、一昨年タイで水没した洞窟から少年達を救助した、本人ダイバーでもある医師の救出体験談とか、入れ替わり立ち代わり興味深いスピーチを拝聴する機会を得たが、一番印象に残ったのはまだ十代のニュージーランド女性のGeneration Zについてのスピーチであった。

堂々たる態度で語り掛けるその若い女性は、コンピューターサイエンスを専攻しているとのことであったが、NASAで研修したり、エリザベス女王への謁見が許されたりした才媛中の才媛である。その彼女によれば、現在10歳から22歳のGeneration Zの若者の特徴は、受動的というより行動主義者であり、理想主義者というより現実主義者であり、協調的というより競争的であり、他の人がしないような選択をするということであった。聞いていてその特徴は正に起業家に当てはまるのではないかと思った。

教育改革論者として有名な藤原和博氏の講演の中では、現在の教育が「情報処理脳」を鍛えるものであるとすれば、これからは「情報編集脳」を鍛える教育をしていかなければならないとして、自ら民間出身の校長先生を志願し、そのような教育を実践しているとのことであった。

脳科学者の茂木健一郎氏は、教育においては記憶力や知識量を養うのではなく、思考力、判断力、表現力を養う探究学習を行わなければならないということだ。

これらお三方の主張は、正しく私の主張してきている起業力教育の実践に他ならない。問題は悲しいかな日本の現状では受験戦争にエネルギーを費やし、そのような教育がないがしろにされ、若い人たちのGeneration Zの特徴が抑え込まれてしまっているということではないだろうか。世の中で同じような主張を何人もの人が訴えていることを知り、意を強くして新年を迎えることができた。

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
理事長 市川隆治

「VEC45周年を迎えて」

VECは当初は「研究開発型企業育成センター」と言っ、関西のユニークな企業10社位が集まり、勉強会を開催していました。当時、百々達郎氏という、ユニークな企業の経営者をトップとして、ガスのディーラーとして有名な(株)孝安産業の榎屋好昭代表や経営コンサルタントの青山様など、ベンチャービジネスなどという言葉も未だない時代だったと思う。VECという組織ができたのも、今から45年も前だったようだ。

私は、当時、シャッターやサッシのメーカーの代理店で、九州を除く京都以西の建築会社の下請けとして営業、設計、施工を引き受けていた。創業者である父も存命で社員30名くらいの会社でした。その後独立し、VEC保証も得て発展する事が出来ました。

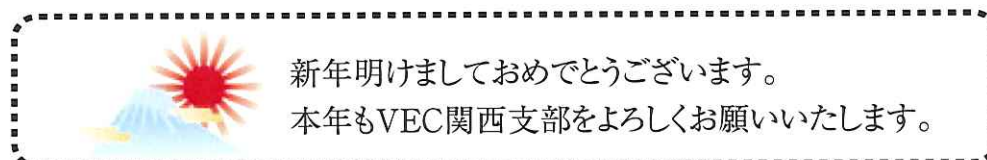
当時、アルミサッシが出来たばかりで、スチールのサッシと比べて高価なので、出来るだけ素材(アルミ)を使わずにサッシを製作する必要があり、台風にも耐えるようにするには、強度、気密、水密、に優れたアルミ断面の性能が求められ、それをテスト確認するために台風を再現できるような試験装置が必要とのことで、窓にかかる風圧が自由に換えられる風洞の開発に着手しました。私が開発担当者となり、装置の特許も取得しました。送風機を二台使い、配管ダクトの間に圧力制御弁を設置してその開度を調節することにより、圧力チャンバーの圧力を自由に制御するという、まだ、世界にもなかった風洞を開発し、アルミサッシのJIS化を実現した。またその延長線上である自然環境試験装置(温度、湿度、音、風速)も開発しプレハブ、やカーテンウォールのパネルメーカーに現在使用されている。

仕事のことはこれくらいにして、ライフワークで現在座禅の会を年に春、秋と二度開催しています。比叡山延暦寺の関係で最乗院というお寺に、30人ほど集まり、静かに座る業です。もう30年ほど主宰していますが、年々参加者も増えてきたような気がします。

12年籠山行という千日回峰行と並ぶ厳しい修行を満行された高川慈照和尚のご指導で、色々な修行のあり方や、お釈迦様の話などを聞きながら、琵琶湖を通過してきた風が心地よく、何も考えずにただ座ると業も、心地よいものです。

また、お昼に戴く精進料理がとてもおいしく、慈光尼に感謝をしながら一日の修行を終えたあとは楽しみがあります。まず、温泉です。湖西線の先に雄琴温泉があり、素晴らしい温泉にゆっくりつかり、そして長年のお付き合いで親しくなった居酒屋で情報交換!! 非日常から新しいアイデアも生まれることもあり、皆様との交流は途絶えそうもありません。

一財)VEC 関西支部
支部長 本田 英行



日本のものづくりとインドを農業でつなぐ

インド・バンガロール在住 阪口史保

ANEW Holdings Inc. Research and Business Development, India

従来、日本のものづくりは中小企業の研ぎ澄まされた技術力と大企業のエンジニアリング力の見事な結合によって支えられてきました。しかし、近年、ものづくり人材の高齢化と大企業内で養成されてきたエンジニアリング力を持つ人材が外部に流出してほぼいなくなってしまうことが日本のものづくり力の低下を引き起こしています。大企業では新しい材料や新しい技術のコラボレーションで新しいものを生みだすことができる人材が不在の一方で、『オープンイノベーション』のかけ声の下、外部から新しい技術を取込もうとはしても誰もそれをプロダクトとして社内で具現化できないというジレンマに陥っています。私はそのような日本のものづくりの現状を海外から俯瞰する立場にあり、中小企業が他者と連携してエンジニアリング力を培い、外部との自社の技術の融合によって新しいものを生みだすことにこそ日本のものづくりの未来があると考えようになりました。この度、そのような思いから、日本のものづくり中小企業の技術をインドとコラボレーションさせたいという夢を持ち、今回、その夢に向かって一歩踏み出す機会を得ることができました。

私がインド・バンガロールにおいてスタートアップ企業の案件発掘・育成、日本企業との連携支援をおこない3年半が経ちましたが、この間、インドの成長スピードを目の当たりにしてきました。中でも私が注目しているのが農業・食品加工分野。同分野のスタートアップ企業への投資金額は、2017年度には126百万米ドル、2018年度には208百万米ドル、2019年度上半期だけで225百万米ドルと、ここ5年間で64.3%の年間平均成長率で成長を遂げています。これは、日本の2017年度のVC投資年間総額(1,147億円※ベンチャー白書2018)の20%以上の金額が農業・食品加工分野に対し2019年度上半期だけで投じられたこととなります。インドの人口成長と共に、確実に需要が増加する農業・食品加工分野の成長に投資家達の注目が集まっていることは言うまでもないでしょう。このようなインドの市場の成長を支えるために農業技術を日本から取り入れたいと、この度、インドから日本へのアグリ・ミッション(視察団)が2019年10月に日本のものづくり企業を訪問しました。印日商工会議所カルナタカ支部が中心となり17名のインドの方々、インドの社会課題である「農業の近代化」に焦点をあて、日本の農機メーカーを訪問することになりました。インドでは近年、急速な経済発展にともない、インドの労働者全体の54.6%(2011)を占める農業労働者が2020年には40.6%、2050年には25.7%になると予測**されており、これまで人手に頼っていた農業は変革を求められています。

日印商工会議所カルナタカ支部が農業大学と連携して20種類の農作物の作付け工程にかかっているマンパワーを分析した結果、収穫、除草、肥料・堆肥に大半のマンパワーが割られていることがわかりました。そこで、今度は日本の農機メーカーを検索し、100社以上の中から5社に絞り込み、最終的にはその中の2社を訪問することになりました。一社目は、滋賀県甲賀市にある、株式会社ジョーニシを訪問しました。同社は、株式会社アルファナビゲーションと開発したGPSを搭載して、肥料・堆肥や農薬を均一に畑に散布することができる、施肥機や散布機を製造しています。二社目は、兵庫県養父市で多種にわたる野菜収穫機等を製造する、八鹿鉄工株式会社を訪問しました。工場を訪ねる前に、近隣の農家で同社のニンニク植付機のデモンストレーションを見せていただくことができ、インドの一行は大喜びでした。今回訪問した二社はどちらもインドからの来訪者を受け入れるのは初めてにも関わらず、工場の端から端まで案内してくれた上に『5S』に学ぼうとするインドの方々の熱心な質問にも丁寧に答えてくれました。インドでは訪日後も、今回訪問した方々を中心に日本との連携により農業においてどんなイノベーションが生みだせるか議論が続いています。このように、インドの人々が熱心に日本との技術連携を求め、日本の中小企業がそれに相応しい技術力を持っていることを確認し合えたことは、初歩ではありますが大きな一歩であり、歩みを積み重ねていこうとを心に誓いました。このような経験を積み重ねて、お互いを理解し、お互いから学び、新しいものづくりのカタチが生みだすことを目標に新しい年に次の飛躍を目指したいと思います。

*Omnivore Ventures **Vision 2050 Document of Central Institute of Agricultural Engineering, Bhopal, 2015

※写真1.「(株)ジョーニシ工場での熱心なインドの視察団」 写真2.「八鹿鉄鋼(株)のニンニク植付機を見て大喜びのインドの方々」



写真1



写真2

ドイツ・ブレーメンの生涯スポーツ

2020 東京オリンピック/パラリンピックへの出場権をめぐって、こちらドイツでも多くのニュースを聞くようになりました。そこで、ドイツの一般の人々は、日常的にどのようにスポーツをしているか紹介したいと思います。日本では典型的に、学校では部活動、大学ではサークル、社会人はスポーツジム、退職後は近所のサークル、というように人生のステージによって、スポーツをする場所が変わります。そのため、学生時代は野球やサッカーをやっていた人でも、社会人になるとチームスポーツを続けることが難しくなってしまいます。こちらドイツでは、年齢に関係なく地域に根ざしたスポーツクラブに所属します。クラブのほとんどは、設立が1800年代や1900の初頭で、100年以上も歴史があります。当時の組織や施設が今でも使われており、施設内には家族を待ったり人が集まるスペースとなるバーがあり、優勝カップや賞状、写真やユニホームなどが飾られていたりしています。私の住むブレーメンの北部では、家から約5キロ程度離れたところに大きなクラブが二つあります。年間費は大人約1万円、子供は7千円程度で、兄弟や家族シニア割引もあります。クラブ内では、水泳、サッカー、ハンドボール、体操、テニス、ダンス、格闘技など15種類以上のスポーツが組織され、会員であれば少額の追加料金でどのスポーツでも参加できます。最近では、ヨガやズンバなどもあります。例えば、うちの長男はサッカーと水泳を7年間続けており、その間空手と体操も数年試しましたが、費用は1年あたり、8千円程度と小額です。

練習場所は、クラブの施設に加えて、周辺の学校も利用されます。また、地域のスポンサーや市町村からの補助金でユニホームを買ったり大会が催されるなど、会費を安く抑える仕組みができています。インストラクターは地域のボランティアが多く、大抵はシニアのヘッドコーチの下に、若いアシスタントが数人います。コーチ自身もどこかのチームで現役でプレーしていることも少なくありません。例えば、サッカーやハンドボールでは、40歳以上、50歳以上というリーグのカテゴリーさえあります。コーチと話をすると、若い時から何十年も当たり前のようにチームでプレーしている人々が結構います。学校や職場を起点とするのではなく、住んでいる地域がスポーツの拠点となると、年齢に関係なく、好きなスポーツを長く続けられるメリットがあるようです。

※右側の写真、長男のサッカーチームの試合でPK戦になった時の様子です。一番手前の黒髪がうちの長男(ジュリオ)で、2006年生まれのチームに所属しています。彼のコーチは、ミハエル55歳です。写真の奥の黒いジャージ姿がコーチのアシスタントです。ユニホームはクラブ内で何年も使われてボロボロですが、まだ使えます。



サッカークラブのウェブサイトは、こちら <http://jfv-bremen.de/>。

うちのそばにある、大きなスポーツクラブのウェブサイトはこちらです。

1) <https://www.tsv-lesum.de/> 2) <http://www.sav-bremen.de/>

ドイツ・ブレーメン在住 アブレウ聖子

～VEC関西より～

・令和2年、また新しい年を迎える事になりました。心に秘めた「今年こそ」の思い、その思いを発展し、実現に向けて第一歩を踏み出しましょう。(本田)

・明けましておめでとうございます。平成から令和元年となり、あっという間に令和2年・・・今年もオリンピック・パラリンピックも開催されスポーツで日本中がまた盛り上がる事でしょう。楽しみです! 今年もよろしくお願い致します。(藤本)

・幸多き春を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は色彩心理学を使って3～4歳児のお子さんとふれあうことに初めて挑戦しました。試行錯誤しながらでしたが私にとっては大変良い経験となりました。新しい年に向け新

たな気持ちでチャレンジできればと感じております。本年もよろしくお願い致します。(濱本)

・今年7月にはVEC創立45周年を迎えます。人生では働き盛りの年齢でありますのでVECはこれからもお役に立つ機関として行動します! 皆様の応援もよろしくお願い致します。(澤村)

<交流会の予定>

2020年2月5日(水) 東日本旅行鉄道株式会社
技術イノベーション推進本部 MaaS事業推進部門
次長 鷲谷 敦子 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293